

口頭発表

病棟看護師の業務における言語活動の全体像を探る試み - 調査・分類方法の妥当性についての議論 -

奥田尚甲
(袖ヶ浦さつき台病院)

本調査・研究は、病棟での看護業務における一看護師の言語活動を4技能(読む、書く、聞く、話す)に着目し、それらがどのような目的でどのくらいの時間どのような形で行われているのかの全体像を明らかにするものである。又、今後の語彙調査における言語資料収集のため、資料選択の予備調査としての目的も併せ持つものである。

計画上は延べ30日程度(人数×日数)を目途とし、参与観察による調査協力者の4技能の使用状況とその目的、使用時間を記録・分類整理を行うと共に公式・非公式に活動目的の解釈の是非や全体の仕事量との兼ね合いについてのインタビューを行う。また、調査対象の活動はあくまでも業務上必要とされるものとし、休憩中の雑談などは対象としない。今回の発表では、数回分の調査を元に実際の記録の記述・分類方法提示、その妥当性についての議論を行いたい。

話題提供

インドネシアEPA看護師の現状報告

平井辰也
(公益財団法人 日本アジア医療看護育成会)・
Dewi Rachmawati
(EPA看護師)

2013年3月に発表された『EPA看護師に関する調査事業報告書』(国際厚生事業団)によると看護師国家試験合格後のEPA看護師が抱える困難や課題として「日本語」「看護・医療」「文化・習慣」があり、その中でも「日本語」に関する困難が最も大きく、「看護・医療」における困難も「日本語」との関連がみられるとされている。

そこで2013年3月までに看護師国家試験に合格したインドネシア人EPA71名にアンケート調査を実施し、現在看護師として就労する中でどのような点について困難を感じているかを明らかにして、先行研究で挙げられた問題点と比較することで、日本語教育の立場から問題点を考察したい。現在71名中60名にアンケートの依頼をし、30名より回答を得ている(2014/7/19現在)。

9月30日まで調査を継続中だが、今回は中間報告を行い、今後の調査研究への意見を求めるために話題提供としてエントリーしたい。また、EPA看護師自身からも話題提供を行うことで今後調査研究への参考としたい。